

平成 30 年 3 月 14 日

## 平成 29 年度域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教育学部  
氏 名 林 朝子

活動テーマ	外国人児童生徒の学びの継続を目指す支援活動 ーキャリア形成につながる大学見学ツアーの実施ー
実施期間	平成 29 年 5 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 8 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容 平成 29 年 11 月 4 日 (土) 10:00～15:00 に津市内外国人生徒中学 3 年生 13 名を対象とした大学見学ツアーを実施した。4 グループに分かれ、学生が 1 名ずつ支援に入り、大学構内や教室の見学、様々な展示等を見学した。当初は、8 月上旬に実施し、授業への参加、図書館やメイプルの見学、食堂での昼食等がツアー内容であったが、台風で延期となり、大学祭に合わせての実施となった。大学祭ということで、生物資源学部での特徴のある展示物 (水族館、ウミガメの生態、星観察等) を見ることもでき、生徒達の興味関心を広げるきっかけとなった。</p> <p>ツアーには、教員 8 名 (津市内中学校 4 名、津市教育委員会 4 名) の参加もあり、ツアー内容を現場教員の視点から確認いただくことができた。</p> <p>(2) 地域への貢献 (地域の発展・活性化への寄与, 広がり) ツアー参加中や参加後、生徒達から「大学で勉強したい」「どうしたら大学に入れるのか」等の発言があり、具体的な進路として大学進学がイメージできたようである。中学校・教育委員会からも、生徒達の学習意欲を高め、維持するのに非常に有意義であったとのお話をいただいた。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況 ツアー当日への参加だけではなく、実施の前後の打ち合わせ、平成 30 年度に向けての話し合い等、メールを含めて密接にやり取りを行っており、十分な連携が取れた。当日のツアーについても、生徒達への指示等、積極的な協力を得られ、滞りない実施が可能となった。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり 学生が現在の社会状況、教育現場の課題を知る貴重な機会となった。外国人生徒が抱えている悩みや問題を直接聞くことができ、また、実際に交流する中で、異文化コミュニケーション能力・国際理解能力の必要性への認識も強まった。</p> <p>(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等) <u>大学見学ツアー</u> 日時: 平成 29 年 11 月 4 日 (土) 10:00～15:00 集合場所: 東橋内中学校・高茶屋市民センター (バス送迎) 実施場所: 三重大学構内</p>

教育学部・人文学部・生物資源学部・教養教育棟・三翠ホール

参加人数：外国人生徒中学3年生13名、津市内中学校教員4名、津市教育委員会教員4名、三重大学学生4名（人文学部3名、生物資源学部1名）、大学教員2名（教育学部1名、人文学部1名）

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

1. 外国人生徒の意識変化

参加した生徒の多くが、家族や周りに大学への進学者がおらず、大学という場所自体を十分にイメージできない状態であった。しかし、ツアーに参加し、構内の広さ、建物の大きさ、教室の広さを目の当たりにし、小学校や中学校との違いに驚き、また、実際に各学部の特徴のある展示物を見ながら、大学での多様な学びへ関心を向けているようであった。ツアー参加途中や参加後の感想でも、大学への進学を意識している様子もうかがえた。大学進学、希望する職業への就職へとつながる学習意欲の継続が期待できる。

2. 学生への多文化共生教育

ツアーに参加した学生4名は、中学生や先生方との交流を通し、多文化共生化が進む三重における課題への理解が深まった。また、実際に外国人生徒と交流する過程で、異文化コミュニケーション能力・国際理解能力を身に付ける必要性を感じることもできた。

3. 社会・教育現場の課題の共有

中学校・教育委員会の教員との打ち合わせを通じ、大学教員が学校現場の課題について知見を得ることができた。今後の大学での講義にも反映し、学生たちに社会・学校の現状と課題について伝えていきたい。